

JFEグループの 社会課題解決に向けた取り組み

JFEグループでは、グループが有する技術力を最大限に活かし、DXを活用した社会課題解決に向けたさまざまな取り組みを推進しています。社会的な課題となっているDX人材育成に向けた社内での取り組みと合わせて、その一部をご紹介します。

取り組み 01 洋上風力



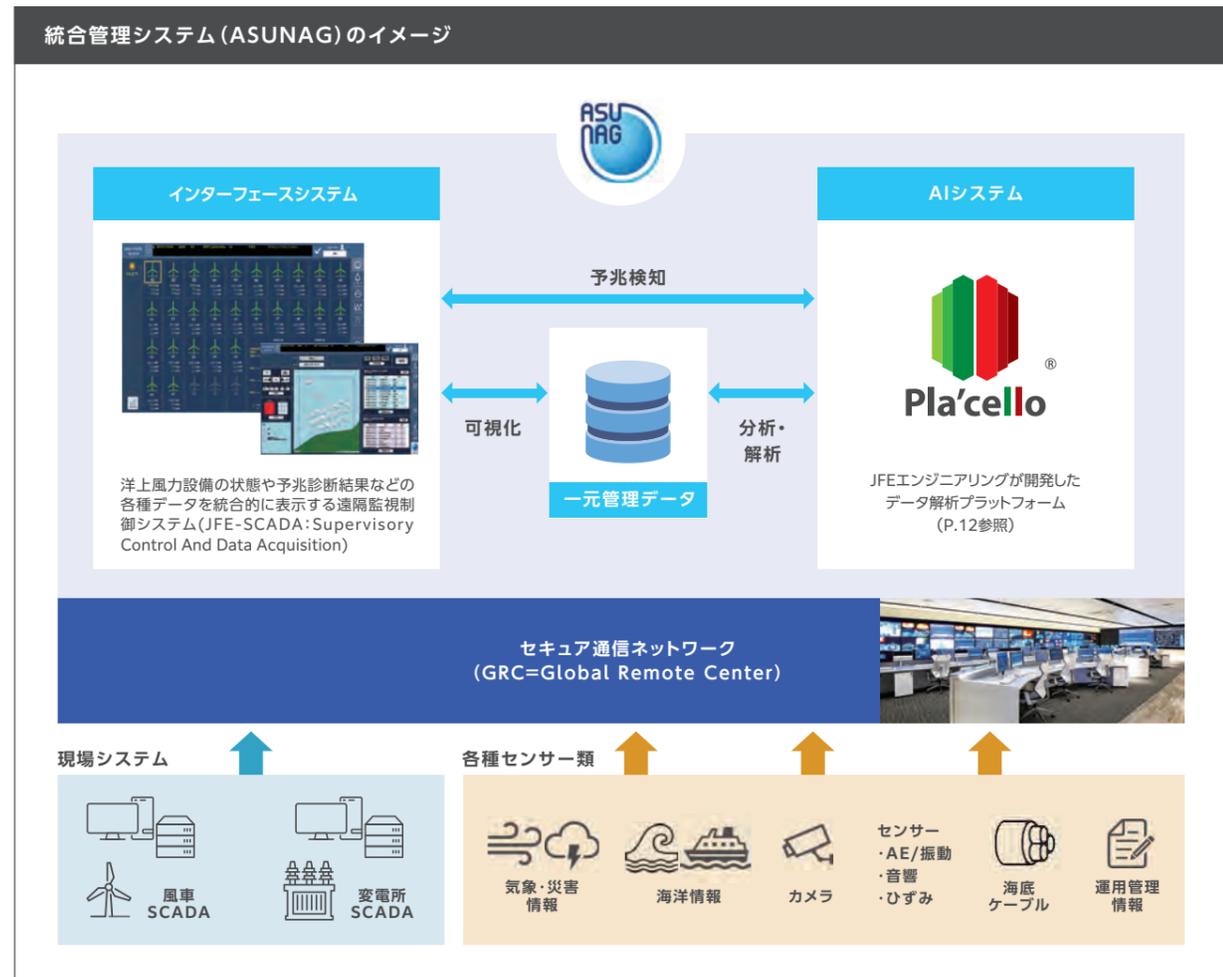
エンジニアリング事業 他

JFEグループでは、JFEスチールの素材製造、JFE商事のサプライチェーン構築力、JFEエンジニアリングのモノパイル製造やプラント運営ノウハウなど、グループの総合力を活用して洋上風力分野での事業拡大に取り組んでいます。O&M(Operation&Maintenance: 運転・維持管理)の領域では、JFEエンジニアリングで蓄積した国内外88ヵ所(2024年3月末時点)を対象とした遠隔監視拠点(GRC: Global Remote Center)での運用実績に基づく技術・ノウハウ、予兆検知につながるビッグデータ解析技術や、24時間設備を停止することなく稼働する製鉄所の運営・保守の技術・知見を洋上風力分野に活用することで、省人化、効率化を目指しています。



入善洋上風力発電所

JFEエンジニアリングでは、洋上風力事業の安定運営に必要な、変電設備や気象、船舶情報などさまざまな情報を柔軟に管理可能な統合管理システム「ASUNAG(アスナグ)」を開発し、2023年11月には初号機を入善マリンウィンド合同会社「入善洋上風力発電所」向けに納入しました。



取り組み 02 ソリューションビジネス

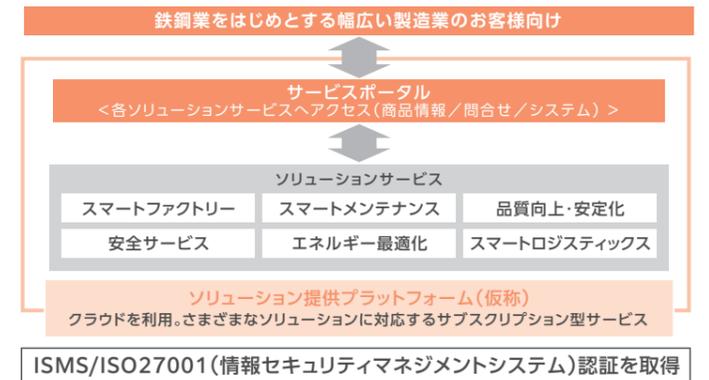


鉄鋼事業

JFEスチールでは、製鉄所の操業や運営で培った品質・生産性向上、設備保全課題や環境負荷低減等に関するノウハウを活かした「ソリューション技術」を社外のお客様に提供するソリューションビジネスを推進しています。

23年度はソリューション商品をクラウド上に搭載できるシステム基盤と運用体制を構築しました。

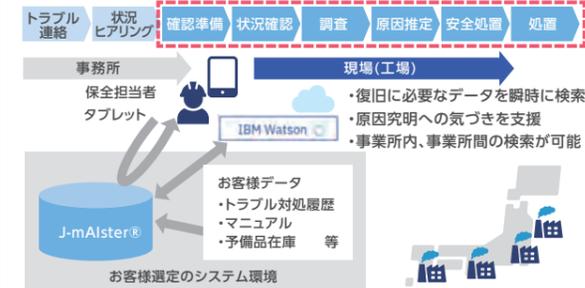
また、社内で開発済の各種技術を鉄鋼業をはじめとする幅広い製造業のお客様向けに商品化し、順次販売を開始しています。



商品紹介

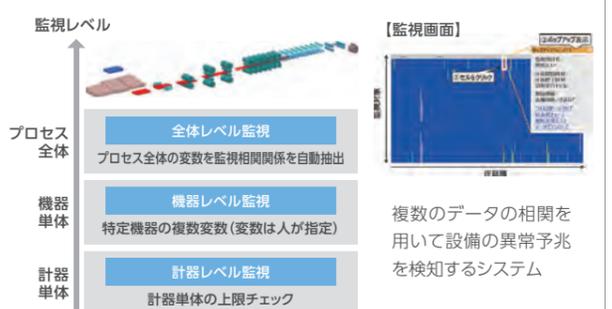
故障復旧支援システム (J-mAlster®)

AI検索技術を活用し、膨大な社内データから意図したファイルデータを高速表示



設備異常予兆検知システム (J-dscom®)

電流・温度・振動など複数のデータから異常予兆を検知、アラートを発報



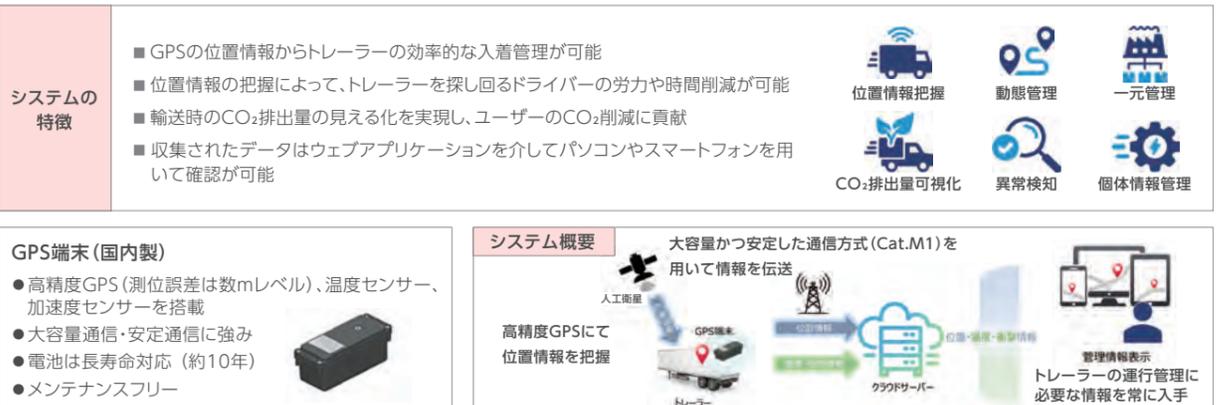
その他ソリューション商品の紹介は以下に掲載しております
サイトURL <https://www.jfe-steel.co.jp/products/solution/index.html>

取り組み 03 物流DXソリューション



商社事業

JFE商事エレクトロニクスは、2024年春から、GPS端末を使用した物流トラックソリューションサービスを開始します。GPS端末により位置・温度・衝撃の情報を「見える化」することにより、トレーラー運用の効率化や各種作業時間の改善に寄与し、物流の「2024年問題」の解消に貢献します。

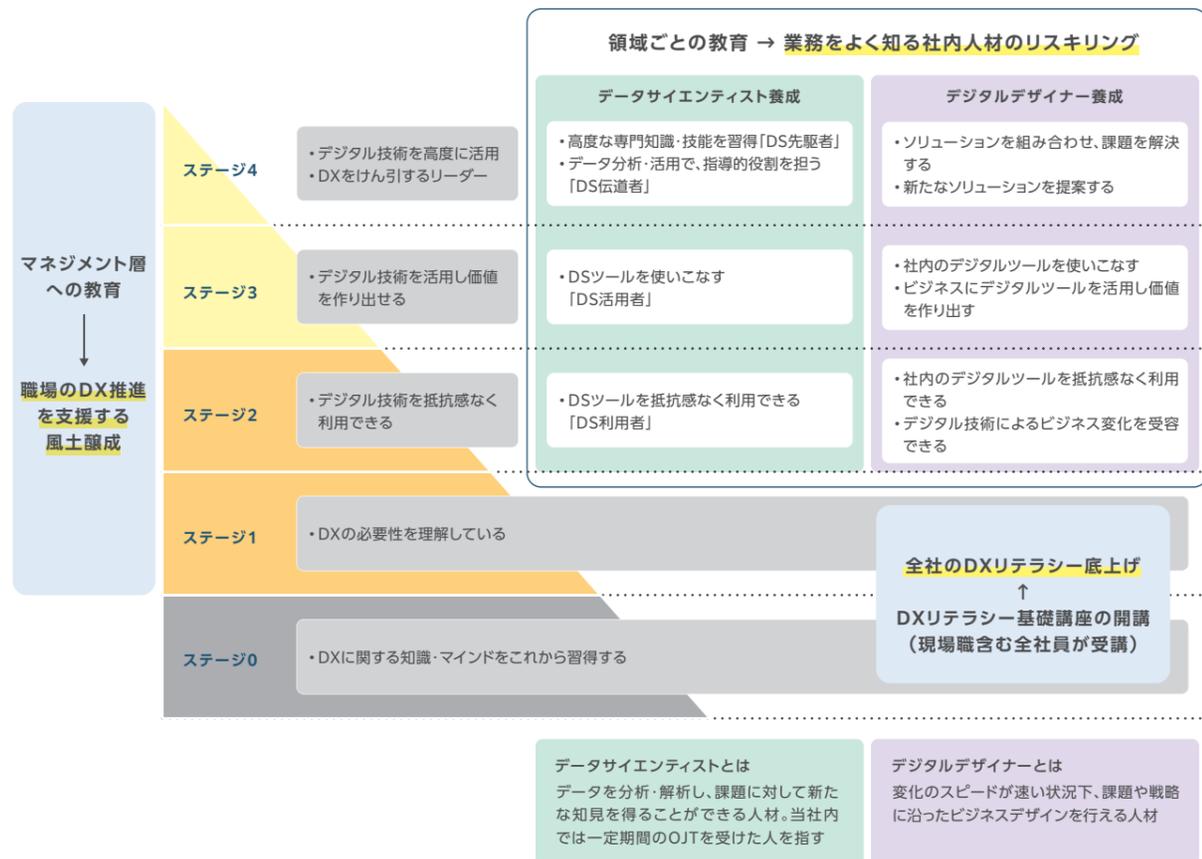




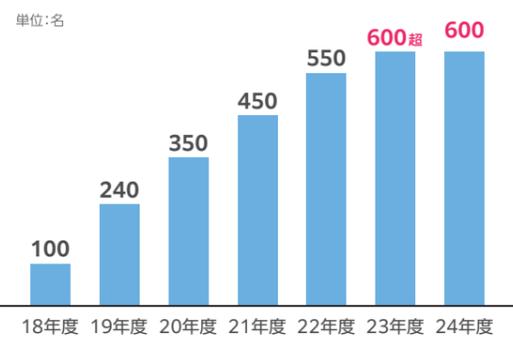
鉄鋼事業

JFEスクールでは、全社員がDXを自分事とらえ、積極的に参画していけるような教育カリキュラムを提供しています。「DXリテラシー基礎講座」による全社員のDXリテラシーの底上げや、役員を含むマネジメント層への教育によって、新しいことに挑戦できる組織風土の醸成を目指しています。

また、DXコア人材には、データサイエンティストやデジタルデザイナーとしてのスキルを身に付けられる教育や社内ツールを提供し、ビジネスをリードしている人々が自らデジタルを活用し、イノベーションを追求していける環境を作っています。

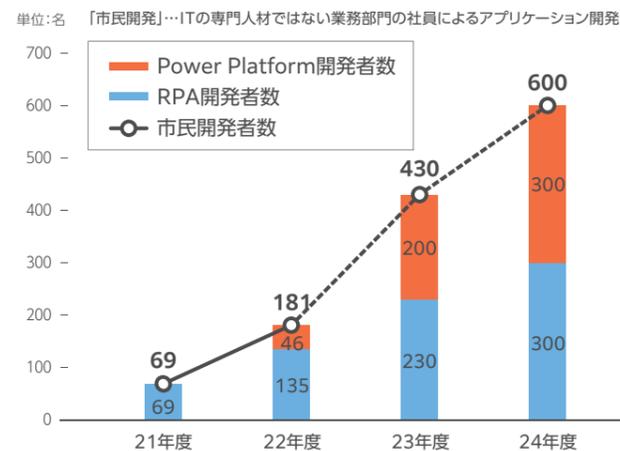


データサイエンティスト養成数の推移



24年度目標を1年前倒しで達成!

市民開発者数の推移



単位:名 「市民開発」…ITの専門人材ではない業務部門の社員によるアプリケーション開発

エンジニアリング事業

JFEエンジニアリングでは、全社DX施策の一環として従業員のデジタル知識の底上げに関するさまざまな教育施策を行っています。2023年度はDXを進める必要性の理解と、デジタル技術に関する基礎知識の補充を目的にDXリテラシー教育を全従業員対象にeラーニング形式で実施しました。また、社内イベント「DX Day!!」を年1回行い、DXを推進するマインド醸成に取り組んでいます。さらに「AI・IoT専門技術部会」を社内組織し、ICT技術の強化やAI活用などのテーマに分かれ、全社のICT技術全般の技術力向上に取り組んでいます。

データ活用人材の育成も積極的に行っています。当社のデータ解析プラットフォームPla'cello®を業務で活用するための導入教育を行っており、Pla'cello®の利用者は2,000名を超えています。より専門的なデータサイエンスの知識習得を目的とした「データサイエンティスト教育」は全17講座120時間の教育プログラムを内製化し、2023年度末で累計200名の受講を目指しています。

DX Day!! ⇒ エンジニアリング事業P.12に記載

Pla'cello®の取り組み ⇒ エンジニアリング事業P.12に記載



商社事業

■ 変革意欲の底上げ

DX推進活動の一環として、2022年度実施した「DXワークショップ」、「役員向けDXセミナー」に加え、2023年度は階層別研修の中でDXリテラシー教育を継続して行い、デジタルを活用した変革の主役は自分自身であることの意識づけを図っております。

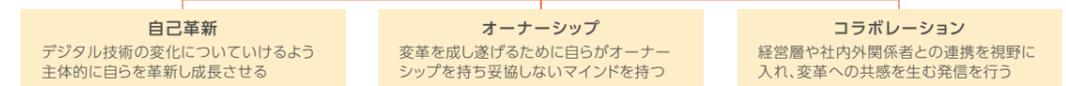
目的	内容	対象
<ul style="list-style-type: none"> DX推進マインド(自分ゴト化)の醸成 データ有効活用の意義と効果の意識づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼業界におけるDX事例 推進成功企業の特徴 データ活用事例 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新任職位部長: 15名(23年7月) ② 新任室長: 22名(23年5月) ③ 管理職昇格者: 36名(23年5月)

研修内容抜粋

DXをうまく推進するためには“自分ゴト化”が必要

- 変革には自らがオーナーシップをもって、「自分ゴト」として仕事を推進していかなければならない
- デジタル技術は日進月歩であるため、進化についていくための自己研鑽も必要となる

自分ゴト化するための3要素



各階層に応じた役割を認識して真いながらDX(変革)の自分ゴト化の浸透を図る

階層	求められる役割
経営層	<ul style="list-style-type: none"> 自らが率先してデジタル技術を活用した変革の必要性・経営課題を社内外に発信 ハードルが高い変革テーマに対する意思決定(=責任を負う)
中間管理職	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化の定着を率先し、後押ししている 自ら改革テーマを組織内、経営層に考案・提言している
担当者	<ul style="list-style-type: none"> 自らの業務、現場に対する課題・変革意識が高い 課題認識を発信・改善提案する意識を持ち、発信・提案の機会を設けている